

鬼行列・だんじり巡行 4年ぶり通常規模で開催

10月20日(金)・21日(土)・22日(日)の3日間、伊賀地区最大規模の秋祭り「上野天神祭」が開催されました。400年余りの歴史をもち、伊賀上野城下町で受け継がれてきた祭礼は「上野天神祭のだんじり行事」としてユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

コロナ禍で縮小開催が続いていましたが、今年は4年ぶりの通常規模での開催となり、百数十体の鬼行列と華やかなだんじりが巡行し、祭りの活気とたくさん見物客でにぎわいを見せました。

鬼行列

悪疫退散と五穀豊穡を祈念する鬼行列。「鬼町」と呼ばれる4つの町で伝承し、「役行者列」「鎮西八郎為朝列」の2つの行列で編成されます。使用される能面などは江戸時代初期から後期の作が多く、古いものでは桃山時代の面もあり、県や市の文化財に指定されています。

だんじり

9つの町の印と絢爛豪華なだんじりが優雅なお囃子を奏でながら巡行。全部で9基あるだんじりの巡行順はくじ取り式で決められます。



▲鬼行列の先頭を飾る、高さ約6m、重さ約120kgの大御幣。5人の男衆で担ぎ、町筋を祓い清めながら巡行します。



悪鬼

悪という字には「強い」という意味が込められています。狩衣をまとい静かな所作ですが、顔は完全に鬼となり蛇体と化した真蛇の形相。

役行者

高虎公が大峰山に眼病平癒祈願を行い、この返礼として能面「阿古父尉」を寄進されたと伝えられています。町衆はこの能面を被り大峰山峰入りの姿を再現したとされます。

今年が一番くじを引いた上野小玉町のだんじり「小籠山」

鎮西八郎為朝

鬼行列の最後尾を飾る源為朝。強弓の名手で他に並ぶ者がいないほど武勇に優れた武者と言われました。鬼ヶ島に住む鬼の頭領を成敗し凱旋したという故事にちなみ、弓矢を片手に威風堂々と練り歩きます。

ひよろつき鬼

釣鐘や笈、大斧を背負いながら道いっぱいひよろつき、子どもを泣かせて大人を笑わせます。泣かされた子どもは元気に育ち、触ってもらうと疳の虫が治るといふ言い伝えがあります。

上野天神祭

ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」



上野天神祭のダンジリ 行事を未来へ
笑顔がつなぐ 四百年の歴史

